



はちのす

木戸小学校学校だより
令和5年5月15日
No.272
在籍児童数393名
令和5年5月1日現在

木戸小学校誕生ものがたり①

校長 貝沼 浩晃

新型コロナウイルス感染症が、5月8日に感染法上の5類に移行されました。3年間に及ぶ制約のある生活で、児童は我慢をしたり不便を感じたりすることもあったことでしょう。耐えてくれたことに感謝しています。それを支えてくださったご家庭のご努力にも感謝申し上げます。

また、地域の皆様、保護者の皆様には、コロナ禍においても、朝の交通指導や学習を支援するボランティア等に協力いただきました。多くの皆様のご支援で乗り越えることができたことにもお礼申し上げます。

ただ、感染症はなくなったわけではないことを忘れずに教育活動に取り組んでまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

本年は創立150周年です。全校朝会で学校の歴史を紹介しました。一部を掲載します。
〈全校朝会5月〉

木戸小学校が生まれる前のことです。鴉又（からすまた）村（今の山木戸）に、薄田順鼎（うすだ じゅんてい）というお医者様がいました。お医者様が町にいただけでもありがたい時代に、薄田先生は診療をしながら、学びたい子どもに勉強を教えたそうです。

薄田先生は医者でしたが、当時の中国の学問である漢学にも詳しく、今なら外国語や最先端の学問にも詳しいということでしょうか。そのような薄田先生から学びたいという大人も遠くからたくさんいらしたそうです。そのために、薄田先生は敷地内に学習する建物をつくって「漢学塾」としました。

学ぶことが楽しくて仕方ないという人が進んで木戸に集まってきたんですね。薄田先生に教えを受けた方は、生涯で300人以上になりました。その後、その皆さんが感謝の気持ちを含めて石碑をつくりました。グラウンドわきにありますね。今度、じっくりと見てください。まだまだ学校のなかった時代に、木戸には勉強できる場所と教えてくれる先生がいたのですね。これはとても誇れることです。

明治5年に学制発布があり、「日本全国に学校をつくって、子どもに勉強させましょう」という法律ができます。法律はできても、学校をつくることは難しいことでした。でも、木戸には薄田先生の漢学塾があるので、そこをお借りして、小学校を始めようということになりました。このときに木戸小学校が誕生しました。明治7年（1874年）9月1日が木戸小学校の誕生日になります。

その頃は、薄田順鼎先生の息子さんである薄田中庸（うすだ ちゅうよう）先生が中心になっていました。そして、この薄田中庸先生が最初の校長先生になりました。（つづく）



薄田順鼎氏の寿蔵碑（じゅぞうひ）